

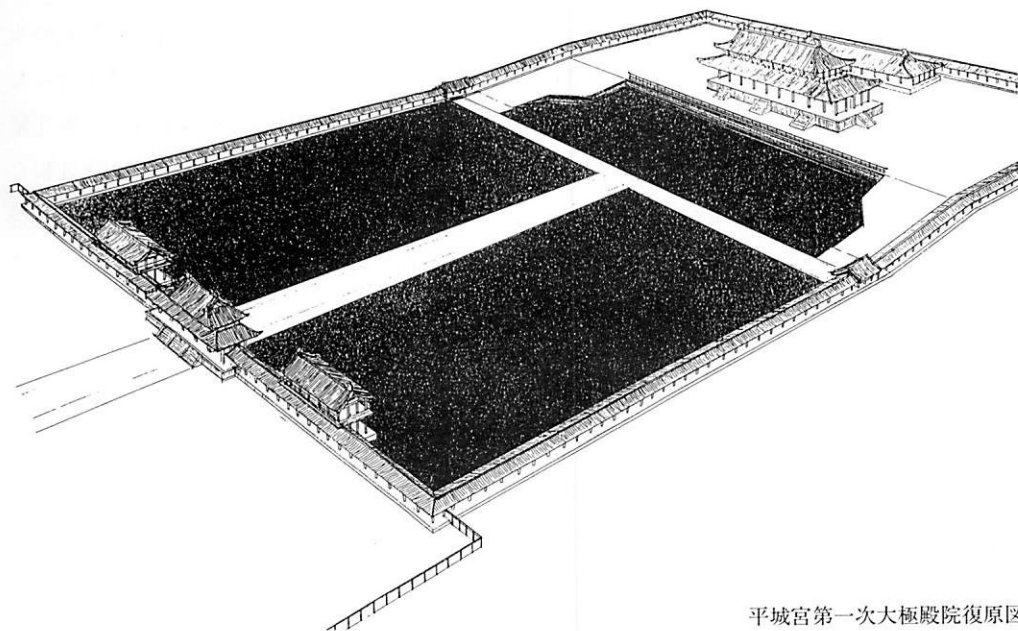
## 平城宮第一次大極殿院地区復原整備のための基礎調査

1978年に文化庁が策定した『特別史跡平城宮跡保存整備基本構想』では、平城宮第一次大極殿院地区は、建物を復原することにより平城宮の規模、構成等を表示するとともに、遺跡博物館の中核施設とすることが決まっていた。その実施は、「基礎的準備段階」完了後の概ね10年間を目途とする「第1期整備計画」に位置づけられていた。つまり、1989年頃までには第一次大極殿院地区の復原を完了する予定であった。しかし、それは第一次大極殿院地区と同様に「第1期整備計画」に入っていた朱雀門、東院庭園の復原とともに、主として予算上の制約から実現に至らなかった。

1989(平成元)年は「第1期整備計画」が完了に近づき、本来ならば「第2期整備計画」を検討すべき時期であったが、上記のような現状であり、「第1期整備計画」の残された課題である第一次大極殿院地区の復原にむけて基礎調査を始めることとした。基礎調査は、まずはじめに計画地現況の把握、その問題点の分析をおこなった上で、復原建物の設計、および復原する建物の活用方法を検討することとした。1992年度はその4年目である。

本年度は、①コンピュータ・グラフィックス(C・G)で作成した建物復原図を現況写真と合成し、復原する建物の景観予測、②復原建物の設計をつめる作業、③平城宮の整備現況把握・分析のまとめ、④復原する建物の活用方法の検討、をおこなった。

また、本年度には文化庁の方でも『大極殿復原構想検討会議』を設置し、第一次大極殿の復原について検討し、その審議の結果を文化庁長官に報告した。(高瀬要一)



平城宮第一次大極殿院復原図